

えっ…寝取らせプレイがしたいって…？
あなたにそういう趣味があるのは知っていたけれど
まさかここまで踏み込んでお願いされるなんて…



私の彼氏くんって、本当にどうしようもない変態さんですね…
ふふっ、でも、大丈夫よ
寝取らせプレイ…付き合ってたあげるわ





まさか…OKしてくれるなんて…

ふふ、なに？そんなに驚いたの？

うん…こんな情けないお願いを聞いてくれるなんて…

私はね、あなたのこと、全部好きだって言ったじゃない？
あなたの、そんなちよっと歪んでるところも含めて、
ぜんぶ大好き！だから安心していいのよ
寝取らせプレイが終わったら、一緒にデート行こうね！



寝取らせの相手は…SNSとかで探すの。

ふふ、私が探すわ。私が人間とサキユバスのハーフだってこと、覚えてるよね？
尻尾しか生えてないハーフとはいえ、
匂いでね、この人間がオスとして
優れているかどうか、なんとなくわかるの。
だから、私が匂いで探す方がいいと思うわ。
それにその方がサプライズ感もあって、
あなたももっと興奮するでしょう？ふふっ♪



寝取らせブレイの当日、
彼女が連れてきた男と僕は契約を交わした。
彼女は「マゾカップル奴隷契約を
結んだ方が、あなたはもっと
興奮するでしょう？」と言った。
その通りだ…

彼女が寝取らせをしている間、
僕は貞操具をつけられて過ごすことになる。
そして、寝取らせから帰ってきたあと、
彼女はその報告を僕にしながら、
溜まりきった欲望を
解放させてくれると約束してくれた。
僕はそんな彼女が大好きだ……！！



この方ね、私たちが進学する予定の学校の先輩なんだ！

コニヤ〜

ふふじゃあね、今夜は先輩と一晚過ごす予定だから…
明日の朝くらいに帰るね。
そのときにたっぷりイチャイチャしよう！
楽しみにしててね♪

「あら、本当にすごいわね。
こんなにフラットになるなんて…」



彼女は「明日の朝に帰る」
と言ったけれど
、実際に帰ってきたのは
2週間後だった…

ごめんね、帰るのが遅くなっちゃって。
先輩がね、「帰ってきた方があなたはもっと喜ぶ」と言うから…っつ…



えらい、よく頑張ったね。
この間、辛かったよね。
いいよ、私が楽にしてあげる。

え？貞操具を外してほしいの...？
もう少しだけ我慢してね。外す前に、
どうしてもやってあげたいことがあるのよ。



ふふふ、それはね、君のお尻でメスイキさせてあげること♡

はぁー
はぁ - ♡

どうしてそんなことをするのか、気になる？
この2週間、先輩にいろいろ教えてもらったの。
強いオスの前で、私はただのマゾメスなんだって...。
だからね、君にも知ってほしいの。
メスとしての快感って、どんなものかを♡



ほち、見て！すごいでしょう？



私って、本当にすごいわよね。ハーフとはいえ
匂いだけでこんな立派な「オス」を探し出せるなんて…♡

ああ、この写真？これはね、先輩が挿入する前に撮ったの。
この長さ…凶悪だと思わない？先輩
これでたくさんの女の子を壊しちゃったんだって。



君は…大丈夫だったの…？

私が？ふふ、何それ。
私を寝取らせプレイに送り出したくせに
今さらそんな心配するなんて…可愛いわね

辛そうな顔してる。もしかして、後悔しちゃったの？



でもね、大丈夫。私にはサキュバスの血が半分入ってるから人間よりずっと丈夫みたいなの。
先輩の、凶悪ちゃんぽに2週間ハメ続けられて、まったく問題ないわよ。心配しなくていいの、ふふ。

それにね、その代わりにコンドームを30箱くらい使っちゃったみたい。
私の体はもう、先輩以外じゃ満足できないって…
サキュバスの本能がそうさせちゃったのかもしれない…♡



さ、続きの動画を見ながら…
今度は私が気持ちよくしてあげるね。
この変態彼氏くん…♡

あら…ちんぽ、全部入りきらないみたいね



先輩ね、すぐに私の弱点を見つけちゃって…
それから、そこばかり責めてくるの。
気持ちよすぎて、私…何度も気絶しちゃったのよ♡



先輩にね、「お前のまんこが、セフレの中で一番気持ちいい」って褒められたの。
それがどうしてか、すごく嬉しく感じちゃったのよ…。
もしかしたら、その瞬間から
私の心まで先輩のものになっちゃったのかもしれない…
なんてね、ふふっ♡

先輩ね、すぐに私の弱点を見つけちゃって…
それから、そこばかり責めてくるの。
気持ちよすぎて、私…何度も気絶しちゃったのよ♡



先輩にね、「お前のまんこが、セフレの中で一番気持ちいい」って褒められたの。
それがどうしてか、すごく嬉しく感じちゃったのよ…。
もしかしたら、その瞬間から
私の心まで先輩のものになっちゃったのかもしれない…
なんてね、ふふっ♡

この角度から見ると、私のお尻ってすごく大きく見えるよね。
あ、もしかして、そのピンクのものが気になっちゃった？



これ、アナルビーズだよ。先輩が私のお尻を少しずつ開発してくれてるの。

実はね、いつか君の目の前でアナル処女を先輩に捧げようと思って…
これは先輩の発案じゃなくて、私の提案なの。
君が喜ぶかなーって思ったのよ、ふふ♡





「この写真はね、初日の最後に撮ったものの。
見て、ベッドの上に使い済みのコンドームがたくさん散らばってるでしょ？
さすが先輩よ、立派なオスだわ。あなたとは全然違う。
だって、あなたなら一回でもう限界だし、
ちんぼも細くて短いんだもの。
オスとして、あなたは最弱よ。」

でもね、先輩にマゾメスとしての喜びを教わったあと、気づいたことがあるの。
私、あなたとのセックスで一度も満足したことがなかったんだって♡



あら、射精しちゃったのね。ふふ。でも、量は先輩と比べるとやっぱり少ないわね。
本当に女の子を孕ませられるのかしら？

どうだった？お尻は気持ちよかった？

…うん…想像以上だった…

そうでしょ？よかったね！
私も先輩とのセックスでこんな快感をいっぱい味わったの。
だから、あなたも同じくらいの快感を得られて…私、すごく嬉しいわ！



















